

第10回 ESS (14期) 東西交流会レポート (ベテラン青年隊 IN 台湾)：平成25年10月30日～11月2日

昨年の交流会で、第10回記念交流会は海外でとのことで、3泊4日の台湾旅行に決定。9人が一般のツアーに便乗することとなった。今回幹事の西森氏からの旅行の詳しい日程表、日中の簡単な会話表、日英中の単語表および台湾の週刊天気予報など親切丁寧な情報をメールで受信し準備は整い出発した。以下その旅行記を記載する。

・ 10月30日 (水) 晴れ一時雨

午前8時に関空に集合し、10時発チャイナ・エアラインで台湾に向かった。

現地時間11時50分に桃園国際空港に着陸(飛行時間約2時間50分)。



空港ではガイドの詹(セン)氏の出迎えを受け、バスで約1時間。台湾映画「非情城市」のロケ地で有名なまた「千と千尋の神隠し」のモデルとなったとされる九份を訪れる。

山の急斜面に建てられた建物は華やかであった時代の面影が残されており、山の中腹を東西に位置する基山街は飲食店や土産物店が密集し大賑わいであった。

その後台北に戻り、17時30分の台湾新幹線で高雄に向かう。19時6分に高雄左營駅到着し、「龍興」で海鮮料理の夕食を済ませ、ホテル「華王大飯店」にチェックインし、ガイドの案内で六合二路夜市を散策する。路上には小さな屋台が多く並べられ、まるで一つの野外レストランのような雰囲気の中、多くの観光客が店を覗きながら見物していた。



・ 10月31日 (木) 晴れ



チェックアウト後全員の写真を撮り、9時にバスで壽山公園に向かう。壽山公園は高台にあり、高雄市街を一望することができた。その後、忠烈祠を参拝し、蓮池潭に向かう。蓮池潭の南西端に龍虎塔があり、この七重の塔に登り遠くの景色を眺望する。



一気に登り、暑かったけれども涼風が心地良かった。次に台南に移動し、昼食後、赤嵌楼を訪れる。ここは台南を占拠していたオランダ人が築いた城跡で、当時の赤レンガが残されているのみであった。



現在は中国式の文昌閣が建てられ、敷地内に鄭成功と降伏するオランダ人の像が建立されている。

ついで、鄭成功が祀られている延平郡王祠を訪ねる。ここは民衆に慕われていた鄭成功一族を祀るために民衆が建てた祠で台湾では数少ない福州式の廟建築だそうである。ちなみに鄭成功は、日本では国姓爺合戦で有名な人物で母親は日本人である。



今日の最後は宝覺寺を訪れた。大きな布袋様の前でベテラン青年隊の記念写真を撮す。

この寺は戦後、台湾の有志が、放置されていた日本人の遺骨を集めて祀り、その慰霊碑が寺の敷地内に建てられており、日本人にはゆかりの寺である。

今夜のホテルは台中にある「富王大飯店」で、近くにたくさんのコンビニがあり、ファミリーマートとセブンイレブンが目についた。

・ 11月1日（金）晴れのち曇り

早朝7時過ぎにバスでホテルを出発し、1時間ほどで目的地の日月潭に到着。



遊歩道は整備されており、湖も透き通りきれいであった。ついで文武廟を訪れたが、武聖殿には岳飛と関羽が、大成殿には孔子が祀られているようである。大成殿裏の展望台から湖を眺めたが、新婚旅行のメッカだけあり、美しさを



誇る所であった。ここは蒋介石の奥方の保養所でもあったようである。

次に、全員でオプションの日月潭ボートクルーズに参加する。湖から湖畔を眺める景色も素晴らしかった。日月潭の湖の中にある唯一の島であるラルー（中之島）は1999年の南投県地震で一部が水没したそうで、現在は上陸できない。ここは原住民の聖地だそうである。対岸に位置する玄光寺に参拝したのち元の観光船乗り場に引き返す。



そしてバスで台北に向かった。約3時間 台湾の西側の高速道路はきれいに整備されており快適な旅であった。特に ETC ゲートも設置されていたのには驚かされた。昼食後、バスの中から台湾総統



府を見たのち、台湾中正紀念堂を見物する。ここでは運よく衛兵交代の儀式を目にすることができた。この敷地は広く、敷地内に国家戯劇場と国家音楽堂が設けられている。今日の最後は忠烈祠を訪れ、また衛兵交代の儀式を見物する。まるでロボットのような動きでよく訓練されている。衛兵は陸



軍と海軍が交互に交代して儀式を行っているようである。



今日のホテルは待ちに待った圓山大飯店である。建物は迎賓館として使われたもので、中国宮殿式建築の巨大な建物であり、豪華さは他に類を見ないほ

どである。我々はグレードアップしてもらい市内を見渡せる部屋に泊まることができた。夜は反省会を兼ねて、6階の堀内氏の部屋でビールなどを持ち込み、しばし語らう。



各部屋とも広く、バスローブも備え付けられており、申し分なく全員満足な気分で眠りについたようである。

・ 11月2日（土）曇りのち雨



最終日は8時半に故宮博物院に行き、ガイドの詹（セン）氏の説明に従い、最初にもっとも人気の高い「肉形石」と「翠玉白菜」を見る。早朝のため比較的観光客は少なく、じっくり鑑賞することができた。特に「翠玉白菜」は小さいながら翡翠で自然の色を生かした細工はみごとであった。また、豚の角煮をまねた「肉形石」は本物そっくりりに作られているのには驚かされる。さらに親子三代が百年かかりで彫り上げた象牙透彫套球は見事という他はない。虫眼鏡を使用しなければ見えないほど

細かな細工を施した玉が17層にも重なっている。神業としか言いようがない。また、オリーブの種の彫刻も見事である。よくこのような細工が出来たものであると感心する。そのほか陶磁器、書画などを見たが、1時間半

の説明はあっという間に終わり、特別展などを見たのち土産物を買って時間を過ごす。昼食は有名な鼎泰豊（ディン・タイ・フォン）で小籠包などの点心料理をよばれたが、うわさのとおり美味であった。その後、総合民芸品店を経て台湾桃園国際空港に到着したときに雨が降り出し、まことにラッキーな旅であった。

・ おわりに

週間天気予報では、毎日雨マークがついており、雨を覚悟して台湾に出かけたが、参加者の日ごろの行いが良いせいか初日にわか雨だけで、天候に恵まれた旅であった。台湾新幹線で気が付いたことであるが、車内販売小姐の接客態度を見ると、お客の様子を窺うことなく、疾風の如く通過しており、また、客室を去る車掌もお辞儀することなしで、こんな点にも「おもてなし」の心があるかどうかうかがえるものでありました。これは、ハードだけ導入しソフト面の導入が見過ごされたためであろう。

さて、最後の物語は鼎泰豊（ディン・タイ・フォン）での出来事である。T氏は、年甲斐もなく美しいウェイトレスの宋恵中さんに夢中になり、彼女と一緒に写真を撮ってもらった時に粗相をしてしまったのである。「宋さんに粗相物語でもある」。また後日、海外旅行のベテランである某氏は税関申告書を書かずに通り抜けようとして一時止められたことも耳にしました。このように最後にハプニングが生じた交流会でした。



(武中照夫記)